

# ゼロトラスト・セキュリティを前提に 自社のスマートフォンをあらゆる脅威から守る

## チャレンジ

境界防御だけでは補えない脅威から

業務で利用する自社のスマートフォンをどう守るか

総合的なITサービスを提供し、顧客のさまざまな課題を解決に導く企業の伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）。同社の情報通信事業グループは、大手通信事業者や放送局、ISPなどを中心に、大規模なネットワークやデータベースをはじめ、ミッションクリティカルで難易度の高いシステム構築など、多くの実績を誇る。また、CTCブランドのクラウドサービスを有し、顧客のニーズに合ったビジネスを積極的に展開している。

そしてCTCの同グループでは、業務には社員一人ひとりにスマートフォンを支給。積極的にスマートフォンを活用することで、業務効率化に生かしている。近年では、デジタルトランスフォーメーション（DX）を背景に、クラウド化やアプリのSaaS化が進んでいるのに加えて、モバイルワークやテレワークの普及に伴って、スマートフォンの利活用がさらに広がり、業務にてさまざまな場面でも利用するなど、使い方の多様化も進んでいる。

しかし、それらの端末のセキュリティの確保には、サイバー攻撃の巧妙化とともに、常に課題がつかまとう。CTCでも、端末にデータを残さないようにしたり、MDM（Mobile Device Management）を導入し、紛失時には遠隔操作でロックアウトできるようにしたりするなど、あらゆる角度から対策を講じていたという。

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 情報通信事業企画室 クラウドサービス営業部 大井康弘氏は「マルウェアやフィッシング、不正なWi-Fiスポットを経由した中間者攻撃などは最近、手口がますます巧妙化しています。社外での携帯を利用してのテザリング接続など、社外のWi-Fiスポットなどを利用する際には、端末は常に脅威にさらされていることになり、セキュリティのさらなる強化が求められました」と振り返る。

## ソリューション

ゼロトラスト・セキュリティの

世界的リーダーであるLookoutを採用

こうした課題を踏まえ、自社で利用するスマートフォンのセキュリティ対策を強化するため、CTCではゼロトラスト・セキュリティを方針の柱とした。もはや従来のような社外との境界防御だけでは守れないとする「ポストペリメター」という考え方が広がる中、個々のアクセスに対して「信頼しないこと」を前提とする対策が望まれる。

「社員それぞれが業務に使う端末ごとに、マルウェアをはじめとする、あらゆる脅威に網羅的に対策し、安全性を継続的にチェックできる体制の整備が必要でした」と大井

# CTC

Challenging Tomorrow's Changes

### お客様プロフィール

顧客の頼れるパートナーとなる総合ITサービス企業。先進のITソリューションやクラウドサービスを組み合わせ、顧客の課題を解決する。コンサルティングから設計、開発・構築、運用・保守まで、ITライフサイクルをトータルにサポートしている。通信、放送、製造、金融、流通・小売、公共・公益、ライフサイエンス、科学・工学など、あらゆる業種や分野で最適なサービスを提供する。

「業務においてスマートフォンの活用が進む中で、ゼロトラストを前提とした網羅的な対策ができ、一歩先ゆくセキュリティ対策を強化できました。」



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社  
情報通信事業企画室  
クラウドサービス営業部  
部長代行  
大井 康弘 氏

氏は話す。セキュリティ対策の強化には、ユーザである社員がスマートフォンを安全で安心して利用できることが前提だが、一方、運用管理担当者の負荷をいかに抑えるかも考慮に入れる必要がある。

そのような課題を解決するために導入したサービスがLookoutだ。ゼロトラストを前提に、端末に潜む脅威を監視することで、モバイル・エンドポイントにおけるポストペリメター・セキュリティを実現する。

「マルウェアやフィッシング、不正Wi-Fiスポットへの対策、脆弱性管理など、私たちが必要とする機能がすべて揃っているのはもちろん、Lookoutはモバイル分野におけるゼロトラスト・セキュリティの世界的なリーダーであり、品質や実績の面で信頼できるものでした」と大井氏は採用の決め手について話す。

加えて主要MDMとのAPI連携機能、GUIのわかりやすさ、日本語対応なども採用を後押しした。

2017年に導入を決め、段階的に導入開始。最初はCTCの情報通信事業グループにて、300ユーザから着手した。

「導入は簡単でした。既存のMDMとの連携も含め、約2週間で導入を終えました。端末へのエージェントのインストールは、エンドユーザである社員自身が行うのですが、作業時間は実質1時間程度で済んでいます」（大井氏）

その後も同社の組織単位で導入範囲を広げ、ユーザ数は、現時点で複数の事業グループにわたり、約7000ユーザにも及ぶ。

## 結果

### ユーザは簡単操作で脅威に対応

### 運用管理負荷の大幅削減も実現

Lookoutの導入によって、大井氏はその効果を次のように語る。

「当社の社員が業務で活用するスマートフォンに対して、ゼロトラストを前提とした体制整備を実現できました。業務でスマートフォンの活用が進む中で、一步先行くセキュリティを強化できました。Lookoutは常に最新の攻撃や手口にもいち早く対応してくれるので安心できます」（大井氏）

強固なセキュリティを確保するうえで、同社はエンドユーザの負荷が必要最小限で済んでいる点も大きく評価している。

「社員は自分の端末にLookoutのアラートが上がってきたら、エージェントアプリの画面に表示されるインストラクションに従うだけ

で、素早く確実な対策を実施しています。簡単な操作で対応できるので、『セキュリティは怖い、わからない』といった心理的な足かせが激減し、さらなる端末の利活用にもつながるでしょう」と大井氏は強調する。

またLookoutは、ディスク容量や動作負荷、バッテリー消費の面も心配がいらぬという。ユーザは普段、Lookoutを意識せずに端末を利用している。

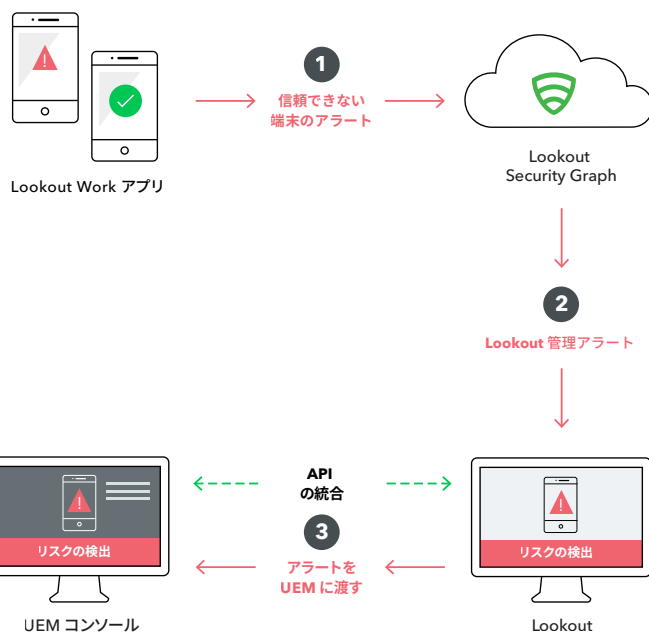
一方、Lookoutの運用管理は同社のグループ企業が担当しているが、その負荷の少なさも大井氏は満足している。

「アラートが上がっても、エンドユーザ自身が現場レベルですべて解決することができています。そのため、管理部門の問い合わせも少なく、運用管理負荷を大幅に削減することができました。Lookoutはまさにエンドユーザにも管理者にもメリットが享受できます」（大井氏）

CTCは今後もLookoutによって、端末のセキュリティ強化を図っていく。「引き続き導入部署の拡大を進めていき、全社でLookoutの利用を目指していきます」と大井氏は展望を述べる。

そして、CTCは自社で培った技術とノウハウを活かし、LookoutソリューションをCTCの顧客にも提供している。Lookoutは、幅広い業種や分野、業務をカバーし、小規模からの導入、会社支給のスマートフォンだけでなくBYODの端末にも対応など、顧客のニーズに柔軟に応えながら、デジタルトランスフォーメーション（DX）のアクセス端末であるスマートフォンのセキュリティ強化に貢献していく。

## 簡易システム構成図



lookout.com/jp